

# 明倫館で夢を実現するぞ！ 二十四年度 希望に満ちた九人が入寮



## 入寮生の言葉

入寮生氏名(大学・学部、出身地)  
 1 自己紹介 2 将来の抱負

平成二十四年四月、南豫明倫館に夢と希望を抱いた九人の若者が入ってきた。親元から離れての生活は不安もあっただろうが、入寮から半年がたち、すっかり落ち着いた表情になった。入寮後間もなくおのおの「将来の抱負」などを聞いた。

**古泉 翔悟** (日本大学・経済学部、八幡浜市)

八幡浜高校出身の古泉翔悟です。趣味はプロ野球観戦で、巨人ファンです。これからの四年間で、いろいろな面で成長していけるよう頑張ります。よろしくお願ひします。

将来は地方公務員になりたいと考えています。大学生生活で身につけた知識を生かし、地元の財政運営の力になれるよう頑張っていきたいと思っています。

**高村 凌平** (駒澤大学・経済学部、宇和島市)

私は、宇和島東高校で商業科として学んできて、検定資格などの取得に励む事で簿記の科目が得意となりました。また、サッカー部だったのでスポーツも人並みにできます。

まず、大学生活を充実したものにしていきたいと思っています。そして、将来は今まで学んできた事を生かして、立派な社会人になりたいと思います。

**宇都宮 和彦** (国士館大学・文学部、宇和島市)

僕は、ワンダーフォーゲル部に入っています。趣味は、体を動かすことと、いろいろなところに旅行に行くことです。

将来は、大学で学んだことと、趣味を生かせるような仕事に就きたいです。

**大野 寛人** (専修大学・商学部、宇和島市)

宇和島東高校商業科出身の大野寛人です。小学生の頃から高校まで剣道を続け、三段を取得することができました。大学では勉学だけでなく様々なことに挑戦していきたいです。

高校で学んだ会計を生かし、大学では更に専門的な知識を身に付け、将来の夢である公認会計士になれるよう勉学に励んでいきたいと思っています。

**池田 洋生** (明治大学・商学部、宇和島市)

宇和島南中等教育学校出身の池田洋生です。部活で卓球をしていました。一日も早く東京の雰囲気慣れ、勉強に精を出していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

色々な事に興味を持つ癖があるので、その興味の旺盛さを活かしつつ見識を広め、人々に様々なものをPR、プロデュースすることができるようになりたいと思っています。

**渡邊 圭** (明治大学・商学部、鬼北町)

宇和島東高校商学科出身の渡邊圭です。現在は体育会・ソフトテニス部に在籍しており、運動にも力を入れています。これからも、文武両道を目指して努力していきます。

将来は、商社へ入社し、海外を舞台に仕事をしたいと考えています。そのためにも、この四年間で、必要な能力や知識を身につけていきたいです。

私は、大学で電気工学を学び、将来は、ロボットのエンジニアの道に進みたいと思っています。そのため、この大学の四年間を全力で学業に取り組みたいと考えます。

**野本 龍** (東京理科大学・工学部第一部、松山市)

東京理科大学工学部に入学しました。野本龍です。東京での寮生活で集団生活でのマナーやルールを学びたいと思うので、よろしくお願ひいたします。

私は、大学で電気工学を学び、将来は、ロボットのエンジニアの道に進みたいと思っています。そのため、この大学の四年間を全力で学業に取り組みたいと考えます。

**上田 敬人** (東京工業大学・第一類、松山市)

東京工業大学第一類に進学した上田敬人です。東京での生活は初めてで、戸惑うところも多いのですが、徐々に慣れていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

数学が好きなので、数学の研究をやりたいと思っています。寮にも学校にも優秀な先輩が多いので、そこから多くのことを吸収し、自分の夢に繋がってきたいです。

**栗田 椋介** (成蹊大学・経済学部、青森市)

青森から来てとてもよそ者ですので、愛媛の同年代の人たちと仲よくしていきたいです。趣味はスポーツや映画、音楽鑑賞などたくさんあります。よろしくお願ひします。

まだ将来就きたい職業は決めてませんが、大学在学中にやりたいことを見つけて、生涯の職にしたいと思っています。九月下旬に退寮。

委員長	横本 颯太郎
副委員長	大野 暁洋
"	上田 雄喜
整備(東)	山本 晃弘
" (西)	河野 寛
風紀	谷 貴人
広報	田中 悠悟
企画	三瀬 翔兵
情報	濱田 勝太
サロン	土手 貴裕
会計	山口 賢人

10月1日現在

## 平成24年度在寮生 大学・出身高校一覧

在籍大学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計
出身高校	東大	東海大	東工大	東農大	慶応大	工学院大	国学院大	国士館大	駒澤大	成城大	専修大	拓殖大	帝京大	東海大	東経大	東工大	東農大	東理大	東洋大	日本文学大	法政大	明治大	立教大	立正大	早稲田大		
八幡浜	1					1						1						1		4	1			1		11	
宇和島東	2	1	1						1	2	1	1			4	1				1	1	4	1			22	
宇和島南							1	1																		6	
南宇和																								1		1	
松山東																										1	
新田						1																1				3	
愛光	1																									1	
済美										1																2	
済美平成			1	1																						2	
合計	4	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	4	1	2	1	5	2	8	1	1	1	49	

## 学年別出身高校一覧

出身高校	一年生	二年生	三年生	四年生	合計
八幡浜	1	3	4	3	11
宇和島東	3	4	10	5	22
宇和島南	2	3		1	6
南宇和			1		1
松山東			1		1
新田	1			2	3
愛光				1	1
済美			2		2
済美平成	1		1		2
合計	8	10	19	12	49

今期、自治委員長を務めさせていただきました。横本颯太郎と申します。私に数々の偉大な先輩方のように、立派に務めあげることができるとか不安な面も多々ありますが、責任感を強く持って、仲間と協力しながら、寮生活をより良い方向へ向かわせていきたいと思っています。今、あらゆる面で明倫館は変化を求められており、このような機会に立ち合うからには、明倫館における素晴らしい伝統を守りつつも、新しい明倫館を皆で作ってほしいと考えています。私たち寮生一同が、社会の一員として自覚を持って行動し、頂いた恩を返すことができるような、立派な人間に将来なることのできるよう、寮生活の改善に邁進していきたいと思っています。

## 寮生活の改善に邁進

自治委員長 横本 颯太郎  
 慶応義塾大学 法学部



# わたしの青春期

館長 木下 博民

九十歳の老いばれに何か話せといわれたが、うっかり喋るとお説教じみて敬遠される。ふと考えた。

諸君と同じ十八、九歳に私はなにをしてきたか、これも、半世紀も遡っては世情がまったく違うので、得意げにしゃべっていても、君たちには興味ないだろう。なんとなく夢を追った大正、戦争の渦に喘いで敗戦と復興になりふりかまわなかった昭和、バブルが弾けて、二等国でなぜ悪い、と妙なことをいう政治家まであらわれた平成まで、よくもまあ、生きてきたものよ。

大正十一年（一九二二）生まれだ。この年十一月二十五日、宇和島に摂政宮殿下（のちの昭和天皇）が来られて、南予は興奮した。宇和島中学（宇和島東高の前身）の校庭を埋めつくした人々は、その時だけの奉迎歌を歌った。若い殿下は、天救園でご休憩後、城山に登られ、天守閣にも入れられた。

宇和島がもつとも輝いたこの日を、しばらくは記念日とし、小学校では記録映画が上映された。昭和初期、経済大不況と戦争機運が綱を交差して襲った。柳条湖事件や上海事変、五・一五事件、三陸の大地震と大津波、やけくそのように「東京首領」が大流行、宇和島では築地花街が大繁盛と裏腹に、我が家は父親の勤めていた製糸工場が倒産した。沖仲仕の日雇い仕事もあつたりなかつたり、乞食のような格好で、樺崎の貯木場小屋から戻って来る父親に遭つたりすると、こどもでも恥ずかしく、物陰に隠れたものだ。

それでも商業学校（宇和島東高商業科の前身）に二年だけの約束で通わせてくれた。三年目に辞めろといわれたが、拾う神があつて、授業料を貸してもらふことができた。そのころ伊達家には、旧制中学にも奨学金制度の恩典があつた。ただ、服も帽子も靴も靴も一年から五年卒業まで一度買ったきり。さすがに背丈は伸びる。継ぎ足さなければ服は着られず、洗ひ晒した

服に背中や袖口、ズボンの両脇と裾に足した布とが、遠目にもよくわかつた。ゴム靴にも困つた。履くと指がくつきり見えるくらい窮屈になつた。ズック靴は白い女学校専用を使った。商業は黒だつたが親の知人のお嬢さんのお古で、これも全校で私だけ。大目に許してもらつた。黒帽は誰かのお下がりだつた。

教科書は上級生と特約して、三学期の試験が終わると、お互いに値付けしあつて買ひまわした。困るのは前の教科書が使えないことがあつた。「先生、困るがなし。なんとかしてやんなせや」と泣きつき、叱られた。一度だけ、修身の教科書だつたか、友だちのを写本してごまかした。

小遣いなど貰つたことはない。有難いことに、商業一、二年は夏休みに、先生に勧められて、宇和島運輸の庶務課の給仕をやつた。机と椅子と三円八十銭もしたが『新脩漢和辞書』が買えた。字引はボロボロだが、いまも使っている。

三年からは奨学金月額六円がある、授業料月額四円五十銭を払つても一円五十銭という法外な大金が残つた。しかも五年のとき、家に勉強にくる下級生がいて、お母さん家庭教師料だといつて持つてきた。先生に相談したら、にやつとして「貰つとけ」といわれた。とたんに家に食費を入れるようになった。後年、骨相占いが私の頭を撫で回して、「あなたはカネに困らぬ人だ」と暗示された。そういうことか、といまでも生活費ではジタバタしないことにしている。

昭和十五年（一九四〇）、十八歳、商業五年を卒業、いまだいえば高校二年卒の学歴だが、大阪の住友鋳業株式会社に採用された。ありがたことに、鉄筋コンクリート三階建て二百人収容の宿舎「自勝寮」に入れた。自勝とは克己（こくじ）の意味で『老子』が典拠である。大阪河内信貴山西麓の田圃の中にあつて環境抜群。九畳部屋を三人がつかつた。三人という数字には意味があり、一人では「不善をなす」といい、二人では「甲論乙駁してまともならず」、三人ならば「鼎のように安定する」と住友総理事小倉正恒（一八七五～一九六一、戦時中の大蔵大臣）が寮名と併せて考えられたようだ。

全国の商業学校から集まつた離職員（住友は「社員」といわなかつた）ばかりである。私の部屋は一年先輩の石川県人、同輩は群馬県人、お互いに借り物のような標準語で話したが、すぐにお国ことばに脱線した。住友グループの各社に勤めていて、同じ会社は同室できないルールだつた。気の合はぬ同室者でも半年辛

抱すればよい。世の中は万事そういうものと教えられた。

自治寮といつても同時入社の大卒指導員（六畳室の個室を使い「六畳室委員」といつた）が六人居て、風紀は厳しく取り締まつた。諸行事は、大広間で月例集会を開き、全員合意で取り決めた。旧制高等学校寮の感じだが、未成年の社会人だから寮の暴飲は厳禁、集会には十銭の駄菓子袋が配られた。

秋季皇霊祭（いまの勤労感謝の日）が寮文化祭で、午前は運動会、午後は全員相撲大会、夜は各階競争の演劇、音楽、手品、落語、漫才、近所の人まで招いて、優劣を投票してもらつた。夕食は酒厳禁のすき焼き食へ放題。

会社の職員歓迎会も、未成年者は絶対禁酒。しかし、兵隊検査に合格したとき、はじめ先輩がビールを勧めてくれた。寮の出征激励会は、後輩の未成年者がいる手前、酒はなし。酒で誤魔化す人生は、決して本物ではないと懇々と諭された。

寮では半年に一度、部屋替えがあり、不公平のないよう公開抽選した。同室者も変わったから、出征するまで二年半に多くの同室者ができた。この歳になつてもお互いに励ましあつてい

もつとも沢山戦死した。戦争の話はまた何時か機会があればしたい。寮生と、戦場ではつたり遭つたことがある。無性にうれしかった。たとえ明日死んでもよい、今日まで生きた証を彼が伝えてくれると、ホッとした。その寮生とは、すぐ別れた。戦死したのか、二度と遭つたことはなかつた。人生つてそんなものだ。

（二〇二二・九・一七）

## 平成24年度下期主要行事予定

### 平成24年

- 10月 5日(金) 入寮説明会(宇和島市)
- 6日(土) 寮生保護者懇談会
- 11月23日(祝) 第4回常務理事会・寮祭
- 12月 1日(土) 第5回常務理事会
- 3日(月) 南予高校での入寮説明会
- ~ 7日(金)
- 24日(月) 冬季休暇開始

### 平成25年

- 1月 5日(土) 冬季休暇終了
- 19日(土) 第2回定例理事会
- 2月17日(日) 第6回常務理事会
- 3月 9日(土) 第7回常務理事会
- 新入寮生書類選考
- 15日(金) 面接選考(宇和島市)
- 3月下旬 平成25年度生入寮開始



## 今月の言葉

ステイ・ハンゲリー、

ステイ・フリーッシュ

（飢えていなさい、ばかげていなさい）

ステイ・ジョブズ

## 解説

二〇一一年十二月、五十六歳の若さで亡くなったジョブズは、人類に三つ目のリングを与えた。一つ目はエデンの知恵のリング、二つ目はニュートンの落ちたリング、三つ目はジョブズの齧りかけのリング。なぜ彼は齧ってしまったのかわからない。人類にはエデンから持ち出した「本来の頭脳」があるのに、かれは永久に齧りきれない「もう一つの頭脳」を遺した。ジョブズのリングはまだ十一年しかたつていないが、人類を、スマートフォンを持った猿に退化させかねない勢いだ。

とんだモノを創ってくれたと慌てるものの、ジョブズが伝えたかったのはモノではなく思想だつた。

巻頭の「ステイ・ハンゲリー、ステイ・フリーッシュ（飢えていなさい、ばかげていなさい）」とは、本来の頭脳を枯渇させず、最大限酷使してもさらに輝く妙薬なのである。「もう一つの頭脳」の味におぼれて齧ってしまったら、それこそ人類は滅亡するだろう。

南豫明倫館 館長 木下 博民

## 「奨学金支援会」だより

### ご挨拶

奨学金支援会 会長 伊達 宗信

平成二十四年度の奨学金支援会の募金状況は、左記の通り、九月三十日現在、皆様の篤志のおかげで百四十九万円に達しています。厚く御礼申し上げます。

ご支援により、大学に通う寮生の学資として、奨学金を貸与することができます。現在、十一人の寮生に月額五万円を貸与しています。ただ、募金の状況は年々減少しており、財源は逼迫しています。今後とも南豫明倫館の運営については、鋭意節約に努めてまいります。引き続き二層のご芳志を賜りますようお願い申し上げます。

### 平成24年度 支援会 募金状況

(平成24年9月30日現在)

	募金数	募金額(円)
理事・監事	15人	460,000
評議員・審議委員	22人	430,000
OB	19人	245,000
現保護者	2人	20,000
一般	15人	165,000
法人	3社	120,000
市町村	1市	50,000
合計	77(人・社・市)	1,490,000

※一般には元保護者を含みます。

## 編集後記

南豫明倫館の庭から虫の音が聞こえるようになりまし。小金井は緑が多く、昼間は鳥のさえずりが流れます。明倫館は自然に恵まれた素晴らしい場所があると、あらためて感じます。

平成二十四年度は後半に差し掛かりました。四年生は残り半年です。悔いのないよう大学生活を謳歌してください。三年生は就職が始まります。人生の目的をしっかりと見据えて、仕事を選びましょう。

一、二年生としても、うかうかしていられません。四年間はあつという間です。海外旅行もいいでしょう。若いほど感動は増すのです。積極的に見聞を広め、寮内外で教師や友人、先輩と大いに親交を深めてほしいものです。